愛國婦人會機關

愛國婦人

毎月五日二十日發行

一部金參錢一ヶ月分金六錢三ヶ月分拾八錢半年分金參拾六錢一ヶ年分七拾貳錢全國無遞送料郵稅代用（壹錢又は五厘切手）一割增
廣告料五號活字一行四拾錢
本紙全部無停版
發行所　東京麴町區（日比谷公園）愛國婦人會內　愛國婦人發行所
發行兼印刷人　山澤俊夫
編輯人　手島益雄

社説

奉天附近の會戰

「千九百五年二月下旬より、三月の中旬に於て、近世に於ける世界の最大戰爭は、東亞滿洲の野に起れり。對手は破竹の勢を以て勃興し來れる日本帝國と、歐洲の半を領し、世界一の陸軍國と呼ばれたる露國となり。各四十餘萬てふ未曾有の大兵を以て、精鋭なる武器と技術の限りを盡して、延長三十里、半ヶ月の長きに亘りて、激戰惡鬪せしが、露軍は遂に日軍の勇猛に敵する能はず十數萬の死傷者と、四萬の捕虜と、多大の糧秣武器等を遺して、全然北方に敗走せり」とは、如何に簡單なる史書に於ても、脱すべからざるの行とはなれり。千九百五年に於ける所有る出來事は、將來忘れらるゝことあらん、然れども奉天附近の此會戰は、永く忘らるゝことなし、獨り其當事者たる日本と露國のみならず、全世界は長に之を記憶すべし、ライプチヒ、ケーニグレッツ、ワーテルロー、セダンの戰爭は、十九世紀に於ける著名なるものなり、然れども之を今回の戰爭に比すれば、其規模の小なる到底同日の論にあらず、我等は此大戰爭、殊には我れの大勝利が、日本帝國の使命の上に、全世界の進路の上に、偉大の影響を及ぼすものあるを疑はず。獨逸の詩聖ゲーテは百年の昔、米國の獨立、佛國の大革命を見、又ナポレオンの時代に遭遇したることを、無上の好運なりと感じ、同時に後世が此時代を如何に解釋すべきを思うて、無限の感想に堪へずといへり。我等は曩に旅順の陷落、露國東洋艦隊の全滅を見、今又奉天附近に於ける大勝利に接す、自らゲーテの感なき能はず、況んや彼れは他國の出來事に就て之を言ひ、我等は自國の光榮として之を經驗するをや。凡そ現在に於ては、偉大なる出來事も、其現在なるが故、左程に思はざれども、今回の戰爭及び我が勝利の如きは、古來我が國は勿論、世界に於て殆んど類例なきものなり、而して、我等は子孫が偉大なる歷史上の事實として、欽仰發揚措かざるべき其出來事に、現在遭遇しつゝあることを思ふとき、誰か感謝の涙を注ぐと同時に、眞面目に我一生の任務に就て考へざるものあらんや。然らば此時に生れ合せたる婦人の任務は如何、良妻、賢母を始め、慈善、感化、教育、慰安等の社會事業、孰れも婦人に恰好なる務なるべし、然れども刻下に在ては、傷病兵の看護、戰死者遺族の救護、恤兵、慰問の如きは、婦人の當に盡すべき急務にあらずや、奉天附近の大勝利は無代價にあらず、幾萬の同胞が血と骨とにて買ひ得たるものなり、我等は一方大に此勝利を祝すると共に、自ら其犧牲となりたる戰士に向て、深厚なる感謝と哀悼を禁ずる能はず、乃ち其意衷を事實に現はすことは、男女を通じて國民の等しく務むべき所なり、男子には自ら其方法あらん、婦人に向ては前記の事に從ふを以て、其最上と信ずるものなり、是に於て乎愛國婦人會及び會員の責務は此光榮なる勝利と共に一段の重を加ふるものといふべし。

勞働（二）

冬の初め一匹の蟋蟀が、寒さと飢とで、半死半生の體で、蜂の巢に參り、蜜の救濟を得て、飢の救はれんことを、頭を下げて頼みました。すると一匹の蜂が、お前は夏を何う暮したか、何故我々のやうに、食物を貯へて置かなんだかと聞きました、私は夏中飲んだり、踊つたり、謠ふたりして、大層陽氣に暮し、冬の事は一寸も考へませなんだと、蟋蟀は答へました。そこで蜂の云ふには、我々の流儀は丸で違ふ、我々は、冬の來ることを思うて、食物を貯へるため、夏は一生懸命に働いた、お前のやうに、夏を働かずに立てた者は、冬には飢えるものと覺悟せねばならぬと申しました。

蜜を貯ふるすら、働かねばなりませぬ、況んや我々が今日其惠に浴しつゝある此文明を作り出すには、如何程我々の祖先は働きましたらう、文明の賜物は天から降つたのでも、地から湧いたのでもありませぬ、皆祖先が腦を絞り、手足を動かした結果であります。怠惰で仕事の出來た例は一もありませぬ。勞働は生活の原則であります、個人も國家もたゞ之に依て榮へます、怠惰は零落の始めて、古から歷史は皆之を證して居ります。ローマのまだ盛んな時代には、敵と戰ふて凱旋した將軍及び兵士は、内に戻ると田園に鍬を取つて、農夫の生活をして滿足して居りましたが、其頃のローマは大層強う御座いました、然るに其後奴隸といふものが使用せらるゝに及んで、勞働は不名譽のものとなり、怠惰と奢侈が、上流社會の特色となつて、遂にローマ帝國の滅亡を招くに至りました。我が國でも、藤原氏、平氏の末路は皆さうではありませなんだか。實に怠惰ほど毒なものはありませぬ。ドイツの哲學者フィヒテは怠惰は元惡なりと申しました。或人が、世界の大半を遍歷した、明敏なる一旅行者に、御經驗上人間に最も普通な特色といふべきものを御認めになりましたかと尋ねました所、それは、人間はすべて怠惰を好むといふことであると思ふと答へました。實に人間は怠惰になり易く、人の働いたもので生活し樂まうといふ了簡が、心の奧にあるものです、それで餘程意志を固くし、しつかりせぬと、何時ともなく、怠惰が蝸牛のやうに角を出します。怠惰は人の心を喰ふ蟲で得て其蟲に取りつかれ易い、着物や書物についた蟲は、土用干しをすれば退きますが、心の蟲はさう容易には取れませぬ。濕氣は鐵を錆びさしますが。怠惰は心を錆びさします。怠惰の人は勇氣のない人であります、怠惰の人は遁辭に窮しませぬ、今日は天氣が惡いから、明日にしやう、明日になると、今日は雪が降るからいかぬ、もうぢきお晝だから、午飯をたべてから始めやう、お客が來たものだから、とう〳〵晝からも出來なんだ、あゝ草臥れた、こんなに眠いのに仕事をするのは毒だから、明日の朝にしやう、といふ工合に、自分許りに巧い理窟をつけて、毎日を立てる人があります、これは勇氣がないからであります。獅子や狼などの外の敵は恐ろしくはないが、怠惰といふ心の敵は實に恐ろしいものであります。怠惰は愛嬌ある美人で、蜜の如き言葉で人を誑かします、美しい唱歌で、誘引いて置いて、人を喰ひ殺す海女シレンにも增した怖いものであります。小人閑居すれば不善をなす、働かぬ人は、溜り水のやうに心が腐つて孑孑がわきます、働く人は絶えず流れる清水の如く、何時も透明で爽快であります。

面倒をさける人は、後から面倒が追ひかけて來ます、これは厄介だから止さう、も少し樂な事をしやうとすると、その樂な事がまた厄介になつて來て、終には何んな僅な事も仕たくなくなります、閑暇は仕事と仕事の間に來るので、味がある、これだけ働いて一息つかうといふので、休息に價値が出るのであります。それで仕事をせずに、又は仕事なしに遊んで居る人は、富者でも貧者でも、憐れなもので、彼等には生活は退屈で厭なものであります。御馳走は料理にはなくて、勞働にある、熟睡は絹夜具にはなくて、勞働にある、怠惰の如く、勞働の報も大であります、勞働する人は最も幸福な人であります。

怠惰には身體と精神とがあります、孰れも良くないが、殊に心の怠惰は一層害になります、心は野の如きもので、穀物が出來ねば、雜草が生えます、粉挽臼と同じく、麥を入れて置けば粉にしますが、放つて置けば臼を磨滅らします。心の腐つた人は、蟲の入つた樹で、見掛けは立派でも、一寸風が吹くとぢき倒れます。しかし身體を使へば、心も活潑となり、邪念も起りませぬから、怠惰の害毒を避けやうと思はゞ先づ身體を働かすが、近道であります。昔から大事業を爲した人は、皆人並勝れた勉強家でありました、其仕事はすら〳〵と出來て居るやうだが、實は皆苦心慘憺の結果であります、彼等は元來勝れた天性のある上に、非常に勉強するから、大きな仕事も出來たのであります、然らば凡人は一層勉強せねばならぬではありませぬか、況んや最も働くべきの時、最も働き甲斐のある今日に生れたる我が國民に於てをや、もし我々の朝夕守るべき最も簡單なる御題目が入用とすれば、それは「働け」の二字の名號であります。

電話番町五百二十番

本號には附錄として評議員子爵夫人松平八百子東京支部幹事阿川多賀子神奈川縣支部幹事中山あい子の肖像を添ふ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

◎戰後に於ける日本婦人の覺悟

評議員　三輪田眞佐子

◉武士の勢力　昔の歴史を繙いて見ましても戰後武人が一國の權勢を擅にした時代には女子の權力は無くて男子に壓制せられたことがありますから日本今日の如き武力が盛んなる時代殊に戰爭後勝ち誇りたる軍が凱戰した後には男子の勢力がいよ〳〵加はつて女子を壓しはせぬかと危ぶものがありませうが私の考へては左樣の事はないと思ひます西郷南洲翁の家庭でも其他有名なる將軍の家庭は極めて圓滿のものでありまして自分が戰さに强いからとて弱い女子をいじめるやうなことはありません弱者を助けこれを救ひます家庭に於て既にそうでありますから社會でも同一であります故に凱戰後は反へて女子の爲には掩護者となり女子の進歩發達を誘導する原動力となる事かと考へます殊に女子に眞正なる敎育さへあれば決して其權限を侵さるゝ事は無い事と信します

◉女子の敎育　日本の女子は今少し敏捷にして道理を辨へるの能力を具有せねばなりません兎角敏捷なものは道理に暗く道理に明なるものは敏捷にありません學校の敎育でも常に精神敎育に重きを置くやう敎へねばなりません例へば繪を敎へるにも繪其ものを上手に書くと云ふよりは物の秩序を付ける精神を養ふ爲に之を敎へ幾何學でも之を敎へるのは道理を精密に考へる能力を養ふ手段として之を敎へると云ふ方針を取り且つ己れは何が故に活きて居るのであるか何故に日々働いて居るのであるかと云ふ道理の一通り位は知つて居ッて女子の權利即ち家庭を治むる權利子女を敎育する權利等を十分に使こなす樣ならなくてはなりません

◉女子の職分　元來女子の社會に於ける職分は重いものであります男子は重ひ荷物を提げたり高い處のものを取つたり鐵砲を擔うて戰爭したりしてつまり外交的又は腕力的の働きを爲すのが其職分でありますが女子は社會の内部を治めて往く事が其職分であります古語に一國の風俗は閨門より出づと云ふ事がありまして國家の裏面に關する事柄は婦人の爲すべき役割になつて居ります第一家を治める事は勿論子女を敎育する事などは皆女子の大なる職分であります

◉男子に敎育が乏しい　今の男子は戰爭には强く腕力も强いですか遺憾ながら尙敎育に乏しい人があります女子が道理を別けて言ふ言葉でも男子がこれを聽別ける力が無い場合には何の效力もありません日本の男子も此上とも精神上の修養が必要であります武力一方で文事が無い時は眞の文明の人とは申されません故に如何に女子敎育が進んでも之に應ずべき男子の敎育が不十分であッては共に社會上の平均を得ることは出來ません

◎現今の婦人問題

森村市左衛門

◉女子と獨立　日本に於ける今日の女子は未だ一人前の人間として働くべき力が調うて居らんかと思ひますこれはつまり女子に獨立と云ふ心懸けが無いからであります世にダイヤモンド入りの指輪をはめて居る婦人はありませう然し其指輪は自分の勞力に依て得たる報酬ではありません皆人に依て求め得たものでありまして斯る婦人はパン一つ作るすべさへ知らないでありませう今日の婦人は尙片輪でありまして男子の助けが無くば何事も出來ません男子と云ふ補助者を失うたならば自分一身の食ふ事さへむつかしい程ではありません既に自分一人が獨立するだけの力が無いのにどうして自分の子を獨立せしむるやうに育て上げる事が出來ませうか獨立心のない母の氣風は其子に傳はり健全なる獨立的思想を有する日本男兒を作る事は出來ませぬと確く信じます私の此に獨立と申すは女子が男子と等しき職業を執ッて終生孤立生活を營むものを指して獨立と云ふのではありません家を治むるにも獨立心が入ります二十圓の月給取りの家内は十五圓で家計を立てゝ往くやうにするのが獨立であります又假令夫が死んでも人に依賴せず自分で子供を育て上げるだけの腕に覺えがある事を稱して獨立と申すのであります

◉女子の革命軍　今後日本社會の内部に於ける改革は女子の司る處であッて今日は恰も女子が革命軍を起す時であります元來男子は職として社會の表面に働き表面上の整理に任ずるものであります女子は之に反して社會の裏面に働き裏面の整理に任ずるものであります然るに今日の日本男子は我國を美しき華やかなる舞臺に引出して萬國喝采場裏に幕を開きましたがさて其後の方を見ればどうであるかと云ふと一も調うて居りません數百年前の舊態を維持して少しも進境が見えませぬ住家も依然たる疊の上の生活である婦人の衣服も不相變の廣い帶である虛禮と知りながら鰹節も配ッて居る是等は婦人の保守的勢力が社會の内部を支配して善事と知りながら容易に改良の出來ないからである殊に男子の不法破倫の行爲に對し女子が矯正する力が無く德義は亂れ賄賂は公行せらる日本の美しいのは其上衣にしたる綴錦のやうなもので其裏を返して見ると襤褸である外國人が日本を新聞て見れば立派であるが內地に來て見ると汚く見える戰後は此裏面の整理が緊要である今日の女子は須く革命軍を起して此任に當らねばならぬと思ふ

◉女子と實業　元來實業とは商人が金を儲ける事のみを實業と思ふのは誤りである何事でも實利實益を謀る事を繰返して行ふものを實業と云ふのである故に行政官にも司法官にも實業がある國家の爲に實利實益を謀るこれみな實業である只官吏が月給に對して表面上の事ばかり爲す時は虛業である一家を治むるにも實業と虛業とがある竈を燃すにも虛と實とがある御飯でも上部だけ出來たやうでも眞底まで煑えて居ない時はこれ虛である家庭に於ても夫の前だけつくろうて居るが如きは虛である故に女子も一家の爲に實利實益を計る事に專心になり總て虛を捨てゝ實を採り所謂實業を營まれん事を希望するのである

◉家憲は不用なり　私は一家の爲子孫の爲一の家憲は作ッて居りますがこれは拋棄して仕舞はふかと思うて居る處であります何故かと申すにこれは自分の思想を紙に書き顯はしただけの事でありましてつまり惡い事をしてはならぬ善き事をせよと云ふのでありますが徒に云ふたり書いたりしたばかりでは決して子孫にこれを遵奉せしむるの力がないと思ひます實に身自ら其事柄を實行して子孫に示すより外はありません例へば朝は何時に起る事と規定して置いても親が遲く起きる癖があれば其子が早起を實行する事は出來ません故に總て親たるものが實行によッて子孫に深き印象を與へ生きたる家憲を殘すより外はないので百の掟があッても子孫がこれを守らねば反古に等しき者と思ひます

◎國本養成策

子爵　加納久宜

◉國本養成の建議案　本年の議會に私共の主張した國本養成の建議案が無事通過したのは帝國議會の花とも稱す可き事柄であらうと思ふ私共當初の考へては主としてて農業を基としてこれを改良する爲に百五十萬圓の支出を要求した次第であるが其後水產の方の改良費も得たい山林の植樹費も得たい〳〵と云ふ風に一本途て往かなくなつて來た斯樣に色々勢力が別かれては十分の改良は出來ない最初は三年位で請合つて改良して見せると云ふたが百五十萬圓が百萬圓に減じたり他の事業が交るやうては五年かゝつてもむつかしいと思ふ

◉外國の借金　は何でも返すか　日本が外國から戰爭の費用を多く借りたが此借財は何に依て日本國民は返濟するのであるか農業は如何に發達しても國內的だから金貨を生み出して外債の返濟に供する事は出來ぬ自分の考では蠶絲業より外は無いと思ふ然るに日本の糸は外國の市場には殆んど用ゐられぬ佛國でも竪糸には勿論橫糸にも用ゐぬ米國でも用ゐる人はないこれは糸の作りが一定せぬ爲である製作がまち〳〵であつて規則的でない爲に大仕掛の器械にかける事が出來ないからであるもしもこれを改良して大日本とのレッテルの許で製造し販賣する事が出來たならば外債を返す位は何でもない

◉種紙の賣買　糸を一定するには其根本たる種紙から改良して行かねばならぬ今日の如き種紙に不同があつて所謂種紙屋の手を經て買受けたのでは到底健全にして一定なる蠶兒を作る事は出來ないそこで自分は此種紙の製造を政府の專賣の許に置き政府の印の捺したものでなくては買へぬ事にするが上分別と思ふ尙自分の考へでは國家は此際數百萬圓を投じて國立製糸場を起し絹糸の製作を以て國家の官營事業としたならば戰爭の費用位は直に辨ずる事が出來ると思ふ

奉天陷落をきゝて　評議員　中山幸子

大君のみいつによりてみいくさの戰うたびにかちときの聲

雪中の進軍を思ひて　三重縣　中谷加代子

雪の山氷の河も渡るらんますらたけをやいかにくるしき

活動寫眞　德島縣　桑原小春

かちどきの聲も聞ゆる心地せりうつろふ影のうごく姿に

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

小説

渡守の娘

中村春雨

萌黄の糸のゆら／＼と風に亂る、堤防側の柳蔭から一艘の渡し舟は突と滑ぎ出た。操る水棹はきら／＼と日光に燦めいて、縮緬皺立つさゝ波の上を小い輪が次第と大きく擴がつて消えて行く。芳紀十七八、黒髪を島田に取上げて、晒の手拭姉様冠の、眉濃く、鼻小高く、眼はぱつちりと、鈴を張つたやう。日に燬けて淺黒い頰の血色美しくぱつと、赧らんで稍汗ばんだ額にほつれ毛、はらりとかゝるを朱唇に啣み、腕、肱の使ひこなし巧みに次第と舟を中流に遣つてゐるのである。

「姉さん、汝にこんな手荒な眞似をさせて一生、草深い田舎に埋れさせとくのは可惜玉を臺無しだ。何うだい、己と一緒に花の都へ上つて行かうて氣はないかい、」と客の一人、黒繻子の襟の掛つた袢天を着て、蠟虎の帽子を眉深に冠つた仲買商人風の男は眼をぎよろつかせながら云ふのである。「事そ行儀見習の爲、己の家の小間使に來てはくれまいか、三年も辛棒して貰つたら十分の支度をして立派な處へ嫁附けてやる」と云つて、葉巻の煙をすぱ／＼と吹くのは、獵銃を肩に、鳥打帽、運動服の身輕な扮裝、色の白い、金縁の眼鏡の光る男である。「ハ、、、、其奴はとんだ行儀見習だ、お嫁入する時や、もう乳呑見を抱へてゐやうぜ、止さつせ／＼、そんな處へ行くより、己がもつと善い家へ周旋すらア、常綺羅を張つて、旨い物許食べて、芝居が見度きやア、ソレ芝居寄席へ行き度きア、ソレ寄席、何處へ出るにも馬車か御手車で、一寸も黒土は踏まさないていふ結構な身分にして上げるが何うだ、己と一緒に來ないか」とニタ／＼笑つて、娘の顔をのぞき込むのは、白髪が山高帽の縁からこぼれて、眼の嚴い、鼻の大きな、額にそばかすのある忌らしい老爺、ぞろりとした絹物づくめの、御用商人とても云つた風。

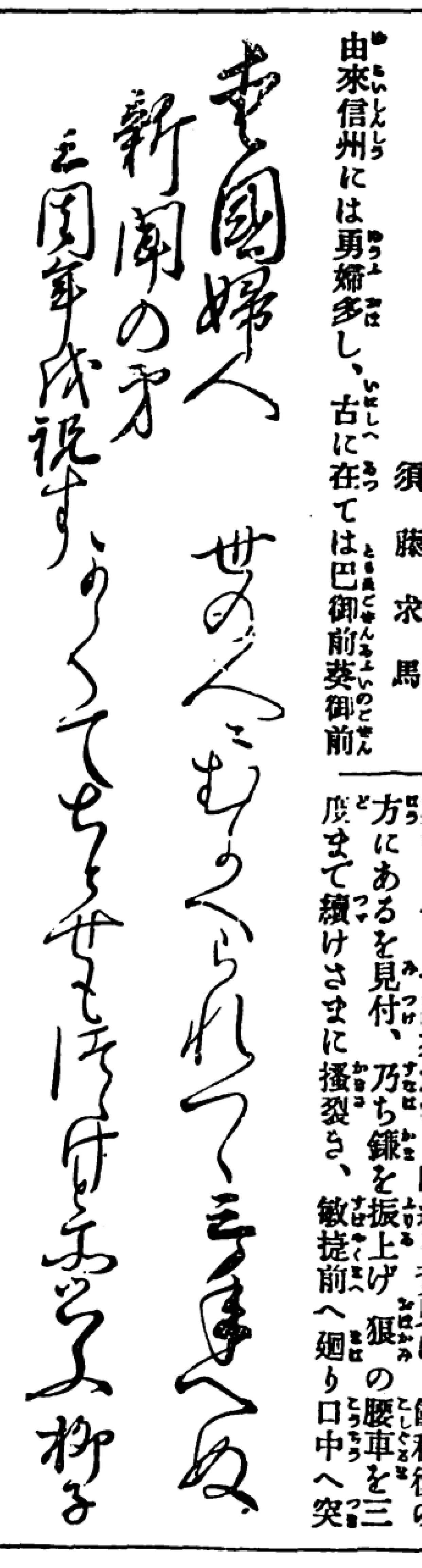
娘は默つて返事もせね、唯鼻の頭にかすかな笑皺を寄せてゐる許。何うだね、一緒に行かうぢやアないか」と獵虎帽が頰を摺り寄せる「小間使の方が餘つ程氣樂だよ、こんな水棹なんか突張つてたてつまらないぢやアないか」と鳥打帽は諭すやうな口調。「己が乾度、引受けて、すばらしい出世をさせてやる、何うだ、來て見るがいゝぢやアないか」と山高帽は横柄である。「知りませんよ」と唯一言、鋭く云つたまゝ、彼方へ振向いて、水馴棹を一つ、グイと突いたが、

　私の一生と川ばた柳
　水の流れを見て暮す

鈴を振るやうな美音は水を亘つて遠く／＼流るゝのである。舟が一つ、どつと搖れて三人の客は周章て、蹲踞込んだ。

渡守の娘は今しきりと調子を張り上げて謠つて行くのである。

（完）



評議員　南鄕柳子筆

◎少婦狼を捕ふ（信濃の男婦）

須藤求馬

由來信州には勇婦多し、古に在ては巴御前葵御前の如きあり、是は松代藩主眞田信濃守の領内水内郡北糸原村大善院厄介よみの娘ひのといへる十七歳の妙齢なるが、頃は嘉永元年五月十九日の朝、字崖下なる處へ、草苅に出てし折柄、いづちよりとも知れず、ゆくりなく狼驅來りひのゝ胸元に飛つきたり、ひの大に驚き、直に狼の兩耳を抑へ組伏せ乘かゝり、一生懸命耳を抑へ壓付、聲を限りに賴む／＼と呼たつれど、崖下山峽にて、村へは二三町も隔つれば、更に聞ゆべくもあらず、狼は益々怒り、ひのを噛殺さんと猛る勢ひの兩耳を抑へたる迄にて、更にせんすべなく、如何にもして草苅鎌にて掻裂きくれんずと片手を放せば、直にひのゝ頭に噛付し所、運よく島田崩に結居たる髷へ喰付き、櫛簪微塵に噛碎かれしも、面部へは傷つかず、亦復鎌を打捨て耳を抑へ、夫よりは命限り押付居たるに、ひの乘懸りたる儘にて、餘程前へずり出し、動ともすれば撥返されんずる勢、誰知る者もなかりけり。ひの以爲く、折角是迄精力を盡したれど、最早此狼に喰殺されんより外はなし、然りとて是迄力を盡し、事を母へ聞かせ度、誰か一目見掛なば、縱令此身は喰はるゝとも本望と、亦聲を限りに呼びたつる所へ、幸なる哉、ひのゝ徒妹隣家辰吉の女房しま、隣村へ田植の手傳に往かんとて、崖下より二三十間上なる道へ通りかゝる、折柄女聲にてさも苦しげに賴む／＼と叫ぶ聲す、何事やらんと直に崖下へ驅け下り見れば、こはいかにひのゝ此體、雄たけびして奮起して假令自身は喰殺されても是非助けんものと、己れが命に替りても助ける、氣を慥に能く押付居れと言ふ儘驅下り側に至れど、空手にて、鎌は何處と尋ぬれど、最早ひのは疲勞極り、其いらへさへ出來かね、四邊を覓見に、餘程後の方にあるを見付、乃ち鎌を振上げ狼の腰車を三度まで續けさまに掻裂き、敏捷前へ廻り口中へ突込まんとせし處、鎌を噛締め、中々以て突かれず、さらば眼を突きくれんと、鋭く鎌をおッ取直し、眉間を目がけ力に任せてはッしと打込む、目當てくるつて咽の下へ打込だり。流石の猛き狼も、面部を一鎌斬付られ少々ひるむを見て、しま曰く、狼最早弱りたり、耳を放して疾く逃げよと、ひの始めて活たる心地し、手を放し後へ退きしが、最初の三鎌打込たるにて、腰の番を切放されしと見え、足は立兼ね、前足許りにて起上り、尙もしまを目がけ吠かゝる、スハと見えたる所、鎌取直し復候眉間へ打込む、何かは以て堪まるべき、さしもの狼も大に弱り、此一撃ちに其場に倒れたれば、此所にて逃げよと、ひのゝ手を引立て村内さして一參に逃歸り、かく／＼と知らすれば、村長首め打驚き、村中の者共、面々に得物を提げ、最早狼も逃去たるべし、よもや其所に居るまじとて往見れば、しまが打込たる鎌傷孰れも深くして、中々起つべくもあらず、のた打廻り苦み怒り居光景、見る目も恐しく、流石の若者ども勢よく驅付たれど、誰あつて狼に向ふものなく、一人存付尻の方より棒もて打てば、多勢一同におり重りて亂打せしかば、漸く撃殺して村內へ携へ歸る、牡狼にて殆ど小牛程ありし由。實にひのが勇氣と云ひ、又しまが驅付仕留めたる始末、兩女の手際、烈婦の振舞、聞く者驚歎に堪へざりしとなん。かくて十九日夜は、他の狼ども荒れ出し驅廻りしを以て村中協議し、狼狩し度旨屆出たり。さて、ひの數時間組伏居る中に、最初噛付かれたる疵、胸は乳首の脇に噛痕三つ四つ、手に數ケ所、幸に薄疵、後難もあるまじけれど、藩主へ屆出たりしが、松代へ召出され、兩女子罷出てたるに、種々當時の有樣御尋問あり、御上にても格別の義とて、早速御褒美として、ひのへ縮錢拾貫文、又しまへ式拾貫文下賜はりぬ。女子たりとも滿身の力を振うて事に從へば、大抵皆如是、往々にして丈夫も及び難き事あり、兩女の振舞、古への烈女にも讓らず、また壯なりと謂ふべし。

◎第壹回作歌募集披露（應募歌百二十首の内　某公爵夫人撰）

題　○光宮殿下の御降誕を賀し奉る　○出征軍人に繪葉書を贈るに添へて

かちほきの聲より外のこゑすなり雲井のにはの千代のひなづる　熊本　會員　日高かず子

あたらしき國の光もさしそひて春のみやまの榮えしるしも　千葉　會員　濱野よれ子

御園生の竹の一もと數そふもうれしき年の始なりけり　大阪　會員　佐野眞子

うぐひすも千代と歌ひて喜びの聲なりあへる御世祝らん　群馬　會員　伏島たき子

髪かざりよそほふこころを繪葉書にかへてぞおくるますらをのため　東京　會員　白田はつ子

年々に千代田の瑞穂稔りつゝさかゆく御代そかぎりしられぬ　大阪　會員　深瀨久壽榮子

よろづ代にいよ／＼さかえん奥深き春の御山におふるわかまつ　東京　會員　今村多摩

千代とよび八千代とほげと喜ひのなほいひたらぬけふにもある哉　東京　會員　[illegible]田春子

大御代のみさかえしるくきこえけりはるのみ山のひなつるの聲　名古屋　會員　名取すむ子

ま輝くこの大御代のみひかりははるの宮居にあらはれにけり　東京　會員　弘田ゆき子

勝どきの聲のうちよりあれましゝみこのみさかえためしあらめや　京都　會員　渡邊豐子

さらに又二葉のまつもおひそひていや榮えゆく大内の山　大阪　會員　富永才子

日の本の光りよ／＼外國に輝きぬらむ今日のほぎごと　東京　會員　桂むめ子

◎第二回作歌募集

▲歌題　愛國婦人會の總會を祝して「愛國婦人」の三周年を祝して▲撰者　某公爵夫人▲作歌數　一人一題三首以下▲期限　三月二十七日限り▲優等の作歌は　本紙に披露し高點者五人に貴婦人自筆の短冊を進呈す

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

◎火事は如何にして起るか之を防ぐ方法

警視廳消防司令官　實田通經

◎不注意の醜い　火其物には何も罪はありませんつまりこれを取扱ふもの丶不注意よりして起るのでありまする上流社會の家庭では火は主に大人に取扱はせますが商家職人では小僧に火を取扱はしますから自然過失が多くあります本年一月二月の火事の統計は百拾八件でありますが其内一番多いのは火鉢、ランプ、竈、煙突等より起つて居ります

●火事の原因　火鉢から出るのは火鉢の傍に干物をして其干物に火が移つたのを知らないで大事になつたり火の子が飛んで居るのを知らずと居ッたり底が焼けたりして火事になりますランプは火を點けた儘油を注いだり臺を顛したり頭でかへしたりして火事になります竈は火が竈より落ちたのを知らないで遂に座板の下まで落ち其下のたきつけに火が移つたりして火事になります煙突から起るのは多く其始めの作りが無造で筒の合せ目が外れて居るのに氣か付かなんだり煙突の挾んである壁の間に空隙がない爲に火が移るのであります

◎消防の方法　西洋建ならば室と室とを仕切る非常戸を輕くして何時でも締められるやうにして置く事平家でも壁が天井の棟までつき抜けて居るやうに建築すると火事を一方だけで消す效力があります消火器よりも龍土水の如きぽんぷで水を送るものを備へて置くがよろしい水道のある内はごむのくだの二間位のものを備へて其くだも常に栓の傍に懸けて置くがよい餘りくだが長いと水を舉げる力が無くなり所謂くだらなくなります

◎電話本局千四百三十番　此番號をよく皆さんに記憶して置いて貰ひたうあります火事があッたら誰れでもよろしい先以て此番號に知らせて貰へば此番號のあるところは消防署であッて此處から直通の電話が各區の消防配置所に傳はッて居りますから其近隣の消防署に之を傳へて直ちに人を繰出し應急の計ひが出來ます假令ぼや位でもよろしいから知らして貰ひたい消防員がかけ付けた時に既に消えて居ッてもこちらは決して不平は申さぬかけつけて見たら豈圖んや燒火であッたと云ふ場合でも決して不平は申さぬ事になッて居ります

◎如何にせば悪しき子供が出來るか

(家政寓語)

●子供が疑問を發したる時自分で分らぬときはよき程の事を答へうるさく聞けばやかましいとて叱るべし發明家となり大智識者が出來ぬ事請合なり

●二人以上の子供があるときは自分の氣に入ッた者計りむやみに可愛がるべしかくせば一方は我儘になり一方はひがみ根性になる事疑いなかるべし

●子供が眞面目で話しをしてもろく〱取合ず面白半分からかうべし後日に至り親が眞面目の意見をなす時に後を向きて舌を出すやうな子が出來る

●坊によきものを買ッて來てあげるから御待よとて留守番させて置きながら何等のものも買ッて戻らず約束を無にすべし必ず虚言を云ふ子が出來る

●來客を饗應する席へ子供を出し置きながら子のねだる儘に客に出したるもの迄取ッてやるやうにすべし意地汚くなり禮を知らざる子が出來るなり

●子供の利益の爲に計ッて家事の手傳ひをさすに非ずして母親の骨休みの爲に子供を使ふやうにすべし下女を不法に使ふ第二の主婦を作る事請合也

●御隣りのお花さんもお金をもッて居るからとの請求の許に我子に金錢を與へ其使ひ拂ひを自由にさすべしかくせば浪費者たる子を作る事は請合なり

●親子の間柄であるからと云ふので所有權の限界を付けず一たび子供に與へたる物品も之を取上げ又は弟に分配を嚴命せよ借財を恐れぬ子が出來る

●子供の部屋は下女に掃かし衣服は母が着せてやり學校の送り迎ひには車を以てし下駄や靴を揃へる迄人任にすべし惣領の甚六らしき子供が出來る

◎家計簿の記載方法

某夫人談話

●記帳後證明が出來ぬ　私は數年來毎日の日課として家計の收支を記載する事は怠りて居りませんが然し主人の前に其帳簿を出して一目瞭然と其使ひ拂ひを明に證明する事が出來ません若し主人から聞かれたならば只私は正直に金錢を使用して決して無益な事には使ひませぬと答ふるの外ありません然しそれでは主人を十分に滿足せしむる事が出來ませんのみならず自分に一切の支拂を托されたる信實に對して自分か十分なる說明が出來ぬとあッては依托の義務に背くわけであります又一方から申すと只自分が忘れずと仕拂高を記入するばかりでは何等の興味もありません前月と本月と比較對照して見て其進境を心に悟り始めて計算上の趣味があり生活を向上せしむるの力があるのでありますが何等の考へもなく同一事を繰返して居ッたのでは幾年立ッても進步は致しませんこれは覺畢竟家計簿の記入方を知らぬ爲と思ひましたから最も簡單なる家計簿を作りました

●紙袋の應用　家計簿を作る前に先づ小資商人から來て居る通帳を土臺として兼てより「愛國婦人」に出て居る各家庭よりの寄書にかゝる科目を標準として家計の科目を定めましたさうして其科目別の紙袋を作り其表面に一ヶ月の豫算高を記入しまして月給を貰ふと直に其豫算だけの金を袋の中に入れて仕舞ひます若し仕拂の時に多少の剩餘金が出た時はこれは無いものとして其袋の中に入れて置き翌月へ越さします又豫算より超過した科目の袋があッた時は他の定ッた科目の袋より決して流用を許しませぬ別に豫備金の袋を作て置きまして其中から出して之を補ひ朱筆で何月分何程豫備金より借り受けと記載し後の月で之を入れ戻し可成各科目毎の豫算を超過せしめぬ事に心懸て居ります

●簡單なる家計簿の調製　餘り面倒なる事は私にはどうも出來兼ねますから成るべく簡單で要領を得たものを作りたいと思ひまして學生の用ふる横野入の筆記帳を求め左の如き帳簿を作りました

家計收支總計簿

年月日	摘要	收入	支出	殘
	前年ヨリ越高	50.000		50.000
	本月分俸給	200.000		200.000
	衣服費		20.000	
	保險金		15.000	
	教育費		8.000	207.000
	何々用預金拂戻	100.000		307.000
	何々臨時費		100.000	207.000

家計費目區別簿　衣服費

年月日	摘要	支拂	計
	何々屋商人衣服代	20.000	20.000
	家族衣服料	10.000	30.000

◎泰西婦女訓

●困難の課業にても始は避け逃る可からざるものと思ひて爲すべし幾何もなく愉快の事となるべし

●己の手にて爲すべき事を看出したる時は己れの力を盡してこれを爲すべし一時に一事は成功の基

●今日只今即刻との返答は決斷に富み神速に事を爲すの勇氣ある婦人の口よりして始めて遂出る也

●決して失望せずとの旗を立て困難甚しき時は愈々多くの勞苦を爲し危險甚しければ益々勇氣なれ

●辛苦して業務を營み艱難して衣食を得るは百事具足して枕を高うして眠るに比すれは更に幸なり

●勞苦なき時は希望なし人の愁悶の心生ずるは勞苦して爲すべき事なき時よりも甚だしきものはなし

●世に向ッて不平を唱らし怨言を吐くは公正にあらず功勞ある人一世に棄られたるを見たる事なし

●事務の秘訣は勤勉する事精細なる事秩序を追ひ時機を差へざる事敏捷なる事以上の五個に過ぎす

●精細は家務の要素なり粗漏なる事は何事にても一度にて完備せす重て始より改めざるべからす

社告

本紙は本號に於て創立以來滿三ヶ年に相達し候就ては本號に於て祝意を表すべき計畫に有之候處、愛國婦人會第四回總會來四月二日に相開かれ候に付、四月五日發行の本紙より、紙面に一段の改良を加へ祝意を表すると共に、聊か讀者諸氏の愛顧に酬ゐ度と存候、右の次第につき祝歌祝詞も澤山相集り居り候共すべて次號に於て披露可仕候間右樣御承知被下度候尚本月廿七日までに續々玉稿御寄送被下候はゞ大幸に存候敬具

愛國婦人發行所

●評議員に急告す

本月貳拾貳日(第四水曜日)の評議員例會日を變更し本月貳拾四日(第四金曜日)午後二時より開會す

愛國婦人會

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

愛國婦人會記事

來る四月二日(日曜日)午後一時より九段坂上偕行社に於て本會第四回總會相開候間御出席被下度候

愛國婦人會

本會會員御中

注意

一、當日は會員章佩用の上必ず案内狀御持參の事

一、參列者は靴又草履御用意の事

一、雨天の設備不十分に付參列者は雨被御持參の事

一、參列者の御携帶品預り場所設備無之に付御含の事

一、地方より來會せらるゝ役員諸氏は着京の上直に其宿所御居出相成度事

◎大會の次第

◎式場の順序　當日擧式の順序は左の如し

第一鈴(午後〇時三十分)

第一　參列者入場

第二鈴(午後一時)

第二　君ケ代吹奏

總裁殿下御臨場(此時一同敬禮)

第三　會長開會の辭

第四　總裁殿下御諭旨

第五　會長答辭

第六　有功章御親授

第七　會務并會計報告

第八　定款議事

第九　祝詞演説

第十　各地よりの祝電披露

第三鈴(午後二時半)

第十一　君か代吹奏

總裁殿下御退場(此時一同敬禮)

第十二　參列者退場

◎總會の式場　偕行社を本部とし招魂社境内及び牛ケ淵公園にテントを張り餘興場幷に來會者の休憩所となすの計畫なり

◎總裁殿下御台臨　閑院宮妃殿下を始め名譽會員たる各妃殿下御台臨あらせらるゝ豫定なり

◎各府縣下より參會者　各府縣より參會の申込者多く鐵道割引券も既に發送せり

◎餘興　陸軍軍樂隊、太々神樂等なり

◎來會者に贈品　總裁殿下御歌入りの扇子及び東郷花簪を一同に配布す

◎會員の特點　來會者には芝離宮、内藤新宿植物御苑、總裁殿下の御庭園、小石川後樂園遊就館等の拜觀を許さるゝやう目下請願中なり

◎評議員幹事方の斡旋　當日の式場には東京の評議員及東京支部の幹事數百名例年の通り各受持區を別ち斡旋せらる

◎式後の宴會　日本滯留の諸外國公使及公使夫人にして本會に關係ある方並に本會の有功章を佩用する方及地方支部の職員には式後立食の饗應を催す而して其費用の如は例年の通り職員の負擔による

◎評議員例會日取　三月廿四日(第四金曜日)四月十二日(第二水曜日)四月廿六日(第四水曜日)

◎評議員例會　本月八日第二水曜日に於ける評議員例會の出席者は理事近衞貞子監事九條惠子評議員清浦錬子板垣絹子波多野爲子柳谷千代子仁杉歌子中山幸子高木鏻子松浦島子澁谷知和子長岡芳子藤井とく子有島幸子岩佐德子關邨子大谷ちわ子佐藤猶子豐島文子鳩山春子の諸氏にして大會準備事項に付き協議せり

◎理事顧問會　去にし十四日午前八時開會出席者は會長岩倉久子理事鍋島榮子顧問二條公爵谷子爵岡部子爵清浦男爵松平男爵澁澤男爵千家男爵堀内中佐にして救護金配付方及大會準備等の件を協議したり

◎評議員遊説　岡部子爵夫人一行は本會會員募集のため本部遊説員富樫眞喜子氏を從へ去にし十六日出發遊説の途に着けり其遊説地は靜岡縣岐阜縣奈良縣和歌山縣大阪府等なり

◎奥村刀自　本月八日郷里出發大阪京都を經て去にし十六日歸京したり

◎評議員田中伊與子の死去　本會評議員子爵夫人田中伊與子氏は本月四日死去せられしにつき本會よりは弔詞幷に榊料を贈呈せり尚同評議員は生前本會始め其他慈善事業に盡力の廉を以て勳四等寶冠章を給りたり

◎遊説員の消息　三重縣地方遊説中なる野中やち子は本月廿日を以て該地方遊説を結了し歸京の筈なり

◎臺北支部總會　臺北支部にては去る十八日總會を開きたり當日總裁殿下より御諭旨を賜はる

◎寄附金披露　其後金拾圓以上の寄附金者左の如し

一金五百圓　英國人　ウイリヤマ、マキシユエル
一金參百圓　芝區　岡田靜子
一金貳百圓　千葉　茂木八重
一金百貳拾五圓　日本橋區　清水よれ子
一金百圓　山形　大津ヨン
一金六拾圓　臺灣臺南　蘇有志
一金五拾圓　山形　小關ヒサ
一金五拾圓　米澤　伯爵夫人上杉兼子
一金五拾圓　米澤　高梨ナチ子
一金五拾圓　臺灣嘉義　早川直義
一金五拾圓　大阪　樋口嘉代子
一金五拾圓　在孟買　間嶋與喜
一金參拾五圓　山形　山崎ノり
一金參拾九圓　麻布　田村影子
一金參拾圓　赤坂　二宮フカ
一金參拾圓　本郷　東宮糸子
外に東郷花簪三千本
一金貳拾五圓　臺灣安平　內地人總代
一金貳拾圓　山形　鈴木サミ
一金貳拾圓　鹿兒島　稻垣政
一金貳拾圓　山形　北島モト子
一金拾五圓宛
山形　白田省吾　在香港　大町メイ　同　北原トモ　同　松本サダ　同　高橋サダ　北海道　野村菊子
在香港　梅津ハツ　同　今福ハツ　同　稻本カネ　同　育田ツル　臺灣臺南　高橋鈴三郎
金拾四圓六拾錢宛
在香港　草野ヨネ　在香港　村上カメ
金拾圓宛
山形　長井シヅ　茨城　匿名　臺灣打狗　熊城鐵三郎　在香港　鄕原琴次郎
大分　匿名　臺灣臺南　高橋友子　在香港　三浦ハツヨ
外に
獨乙貨六拾馬克　在獨乙伯林　フエリツクス、ミユツレル氏外七名
墨銀貳拾七弗　在清國英人ヒー、ダブリユー、アフレクト、スコツト

◎各地支部の狀況

◎北道支部　同支部内札幌區幹事會に於ては昨年十月第七師團兵士着用襦袢胯下の裁縫を無報酬にて引受第一回千五百枚を納入し又此程千七百組引受け目下手を別ちて調製中なりと云ふ

◎大分支部　新年并に紀元節の祝賀を兼二月十一日三重高等小學校内に於て在三重町會員の祝賀會を開き頗る盛會なりし

◎德島縣支部　卅七年中の事業の大概左の如し

一會員募集標準を定め各幹事をして專ら會員募集に盡力せしむ其結果二月末日に於て特別通常合せて二百四十一名なりしが三月末日に至り八百七十八名に増加し年末現在千三百三十四名となれり

一戰傷病死者の遺族に對しては本會弔詞の外支部長より遺族に對し弔意を表する慰問狀を發送することゝなせり即ち初發より十二月末日に至る間に於て發送件數八百五十九通に達す

一傷病者家族に對しても同樣支部長より慰問狀を發し家族を慰めたり其數一千五百七十九通に達す

一應召軍人出發歡送のため德島驛構内又は郡部に在ては適當の個所に於て毎回見送を爲す今德島驛に出張したる度數を擧ぐれば十七度にして毎會支部長副長以下會員數十名熱心に歡送せり

一戰病死者葬儀には必す支部長は支部を代表會葬し弔詞を朗讀し又は代理をして朗讀せしむ昨年中會葬弔詞を朗讀したるは四百六十一通に及べり

一支部經費を以て會員募集獎勵上會員門標を製し各門戶に掲げしめたり

◎「愛國婦人」寄贈に對する謝狀

謹啓益々御勵精の段奉大賀候陳ば毎度愛國婦人御寄贈被下誠に難有殊に貴會の熱誠なる御行動は新聞其他にて委細了承常に感激に堪へざる次第に御座候爲邦家一層御隆盛の程奉祈候當隊の將卒士氣旺盛何れも將に來るべき大決戰を期待致居候間乍他事御放慮相願度御禮まで如此に御座候

二月十九日　後備步兵第九聯隊長　飯島　龜

拜啓今般出征將士慰勞の目的を以て總裁閑院宮妃殿下の思召により新聞「愛國婦人」多數御寄贈に預り早速各部隊へ配布方取計申候貴會の始終熱誠なる同情は將士一同の深く感謝に不耐次第に有之何卒右御禮總裁宮妃殿下へ可然御執奏被下度尙貴會の益々御隆盛ならんことを奉祈候敬具

二月廿二日　遼東守備軍參謀長　神尾光臣

◎總會出席者汽車汽船賃割引證使用心得

○官設線路及私設鐵道中連絡の分は割引證に記載之通

○上武、阪鶴、日本鐵道、甲武、川越、成田、尾西、水戶、龍ケ崎、青梅、東武、内國通運汽船、
以上は割引券發賣期間及通用期間　往復　總會前五日間後五日間　各貳割引

○七尾、北越、中國、日本鐵道官設線連絡、關西線(關西線中大阪市の各驛よりは往復切符に限)參宮、山陽(往復切符發賣驛即ち兵庫、岡山、倉敷、玉島、笠岡、福山、尾道、糸崎、本郷、海田市、廣島、宇品、横川、己斐、宮島、岩國、柳井、德山、三田尻、小郡、厚狹、小月、長府、下關、吳、阪村、多度津、善通寺、琴平
以上は割引券發賣期間及通用期間　總會前七日間後七日間　各貳割引

○北海道、九州、北海道炭鑛、日本郵船、大阪商船、共同組、(以上三漁船内地航路)土佐商船(土佐商船は三等乘客に限り)
以上は割引券發賣期間及通用期間　總會前十日間後十日間　各二割引

○岩越線は割引券は往路には證印を受け置き復路に四割引期間は總會前後各五日間

○總武線は割引券は往路に證印を受け置き復路に二割引期間總會前後を通して五日間(但し總會日を中心とす)

○豆相線は三割引割引期間は總會前後各五日間東京灣航船は總會後十日間復路に限り二割引

○東武線は三等乘車に限り往復切符を發表す

○房總線は總會日を中心として割引切符發賣期間前後を通じ七日間とす割引二割通用期間全日數

備考官線及山陽、關西(大阪市内各驛)參宮、日本鐵道、九州の各驛は往復切符を發賣せるに付割引證は一人一枚又其他は往復二枚を要するものと御承知ありたし

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

戰報

●奉天附近の會戰　奉天方面の敵は全く包圍に陷りて殆んど殲滅に歸せり公報によれば敵の兵數三十萬にして其半數十五萬は或は捕虜となり或は死傷し或る一師團の如きは全滅したりと云ふ尙我軍は之に滿足せず敵を追擊して奉天を去る約十餘里までに及び敵をして四離滅裂に歸せしめざれば止まざるの勢ひ敵をして鐵嶺にも足留する事能はずして此をも既に占領せり此戰爭は海軍に於ける旅順艦隊の全滅に等しく滿洲に於ける陸上權を占有せしものと云ふ可し

●敵の軍略　捕虜四万敵の遺棄せし屍體二萬六千五百其他の死傷約九萬と報す而して戰利品小銃並に其彈藥は無數なるにも拘はらず火砲は僅かに六十門なりと云ふ然るに敵は千五百餘門の火砲を有したる事なれば退軍の際迅速に大砲を後送したるものと思はる元來退軍の節は大砲を最後まで利用して味方の退却の保護をつとむべきものなるに露國は人命よりも器械の方を尊ぶものと見へ多數の死者を遺棄してまでも大砲の保護を計りしものと見へたり

世界のしんぶん

●高價になりし土地　シカゴ市にては或る土地が最初一千二百圓にて買はれ二十年後に八万圓にて賣られたるが現今は三千六百萬圓の價格ありとぞ

●新發明の案山子　此頃英國にて一農夫の發明せし鳥をどしは頗る有効にて其方法は數多の剝製の猫を果樹の上に置き種々の形になし置けば鳥は全く來らずといふ

●支那の大運河　支那の大運河（隋の煬帝の作れるもの）は長さ八百哩にして始より終に至る迄に四十一以上の都會を通過するものなりといふ

●必用なる食物　人の身體に必要なるものを悉く備へ居る食物は世界中只二つにしてそは牛乳と鷄卵の黃味となり人は他のものを食せずして只此二つにても生活し得と

●土耳古の言語　土耳其の言語は現今の世界言語中最も流暢にして音樂に適し人の耳に柔かく聞ゆること伊太利語より數等勝れたるものなりと云ふ

●護謨の原料　護謨は木の膚を切りて汁を取りて製するものなるが凡そ二十年間は引つゞき液汁を出す而して最もはげしく度々切られたるものほど汁を出す事多しと

●怠惰ものを直す法　オランダ國にては職業に怠けて貧に陷り人に助を乞ふものある時は一つの箱に其人を入れ其箱に小き穴を穿ち河の中に流すなりと如何に怠けたる人にても其箱中に水の入り來るを見ては一生懸命に水汲み出すなりこれ同國の習慣にして刑罰の一種なりといふ

●眠むらぬ動物　魚類及爬蟲類及昆蟲類の内には一生涯眠らぬものあり就中鰻、蛙、金魚の類は決して眠らず蠅の或種類も眠らず蛇の類にて眠らぬもの五種ありといふ

●磁石の力　或る大鐵工場にては此頃磁石機にて大なる鐵塊及鐵板を擧ぐる事を發明せり凡そ三斤の磁鐵にて五噸計りの鐵を揚ぐべしといふ

●此の方法　此の方法によれば古の方法にては爲し難かりし熱鐵をも運ぶ事を得た又昔の如く鐵塊を度々鎖にて吊す類の要なき故頗る簡便なりと

●平和戰爭館　故ブロッホといふ人の創立にて瑞西ルセルン市に「平和戰爭館」といふものあり此の博物館には太古よりの戰爭用の武器を最もよく分る樣に並べあり且つ誰れにても戰爭の恐るべきものなる事を知らしむる樣になしありといふ

雜報

●音樂界　▲東京府教育會にては神田樋際に音樂堂を新築しこれを和強樂堂と名け開堂式を兼ね此程音樂會を催したるが非常なる盛會なりし▲日比谷公園の音樂堂　公園音樂奬勵の爲に東京市の設計にかゝる音樂堂は其工事七分がた出來上り四月中旬頃には開堂の運に至るべしと云ふ▲東京音樂學校春期演奏會　昨十九日開會せし筈にて幸田延子氏及びコイベル氏等も出演せしよし▲文藝遊戲協會　本月廿一日午後一時より兩國體育俱樂部にて音樂演奏會を開くよし▲慈善能樂　九段能樂堂に於て去る十八日十九日の兩日催したり▲音樂專門の雜誌は音樂新報音樂の友能樂の三種なり

●美術界　▲上野公園に開かれつゝある展覽會は以下の如し▲眞美會第三回展覽會　三月一日より三十日迄▲日本戰術展覽會　三月一日より三十日迄▲トモヱ會展覽會　三月一日より廿日迄▲歷史風俗畫第三回展覽會　三月一日より十五日迄▲太平洋畫會展覽會　四月一日より二十九日迄▲巽畫會展覽會　四月一日より五月十日迄▲日本畫會展覽會　四月一日より五月十日迄▲美術協會第三十七回展覽會　四月一日より五月八日迄▲東京南畫會は去る十九日上野三橋の櫻館にて大揮毫會を開けり▲日本戰畫展覽會は小山榮達氏の揮毫に係る日露海陸戰の戰畫百五十餘點の外尙幅七尺餘の陸戰畫を近々出陳すべしと此外五姓田芳柳氏始め各大家揮毫の日本畫は百餘點の多きに達したるを以て陳列場の區域を擴張する由▲眞美會展覽會　同會の重なる作品は鷹田其石氏の老子、岡不崩氏の大飛瀑、寺原樵翠氏の祇王、大野石萱氏の喜、照尾美觀氏の憂愁、荒木寬月氏の鯉等なり

●教育界　▲來る四月の新學期より入學せしむべき各女學校の生徒募集中のものは▲女子高等師範學校は專修科の國語體操科若干名尙同校附屬專攻科は一學年の生徒募集▲東京音樂學校は甲種師範部生徒若干名募集中▲日本女子大學は本科各部の生徒▲日本女學校は專攻科一學年本科一二三學年家政科一二學年專修科一二學年の生徒▲三輪田高等女學校第一學年及第三學年の生徒▲東洋女學校は一學年より四學年まで▲女子美術學校は各本科の一年生▲體操學校女子部は高等科普通科若干名▲女子商業學校本科生若干名▲成女學校本科生若干名募集なり

●動物界　▲上野動物園に今度新たに陳列したのは暹羅產の動物ばかりにて、是は暹羅政府の農事顧問に雇はれて居る、農科大學の農學士外山龜太郎氏が、此程歸朝するに際し、態々携帶の上寄附せしよし、其動物は、猫二疋、駿虎二疋山龜二疋なり▲駿虎は一疋が長さ八寸他は七寸で灰黑色に赤の斑點あり、山龜は二疋とも小さし、特色は龜甲の筋目が高く首を延すと、青い筋が通れり▲其他面白きは一檻に小熊が六頭同棲して、喧嘩もせず戲れて居り、日光產が三頭青森產が三頭で食事をする際は時々嚙み合ふよし、それ以外は至つて溫和しく、掃除人が檻の中へ入つても、差支へないまでに馴れり▲動物虐待防止會は去にし十五日學士俱樂部に開けり▲海軍の水兵にはやさしい心懸のものが多くて閉塞船の中に鷄の生きたのが數十羽居ッたが上官からこれを殺して食へとの命令があッても誰れ一人殺す人がなく遂に其儘船もろともに水に沈めたそうである

●慈善界　男爵岩崎久彌氏は寄附にかゝる澁谷分院の娛樂室の構造は建坪百五十坪の三階煉化石造にして大廣間あり種々演藝の用に供するを得べく其上の二階及三階は何れも約十二疊敷にして之を將校娛樂室とす左方の階下は寄附品倉附所にして其上の二階及び三階は何れも十二疊敷にして之を下士以下の娛樂室とす其他酒保及び下士以下の面會所、喫茶喫煙室等あり病者は頗る娛樂を得ると云ふ

家政上の法則を簡明に網羅せる婦人必携の書なり軍國の際能く法則を心得家内に無駄を生せず堅忍持久せしめん爲に發行せり定價十二錢郵送料不要郵券代用不苦

東京市麴町區下二番町三七
大日本女學會
電話番町千三百三十番

日本女子大學校御用
共立女子職業學校御用
日本女子美術學校御用

造花材料
造花器械
造花用繪具各種
摘み細工原料
花簪原料
根掛原料
刺繡用金糸平金類
和洋リボン各種

東京市日本區横山町一丁目十六番地
天野卯兵衛商店
（電話浪花一六四三）

ホワイト裁縫ミシン

●構造堅牢 ●運轉圓滑
●使用便利 ●外觀美麗

●足踏み　五十三圓より九十圓まで
●手廻し　二十九圓より三十七圓まで

○本店は大阪奉効會へ數十臺納品の光榮を有せり

横濱市元濱町一丁目五番地
古屋商店
神戸市加納町四丁目十五番地

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

◎評議員に急告す
本月[illegible]二時より開會す
[illegible]日（第四木曜日）の評議員會を[illegible]
愛國婦人會

◎故京都支部幹事廣瀬都子刀自

木會京都支部幹事として最初より盡力せられたる廣瀬都子刀自は此程死去せられたり本會よりは生前に有功二等賞を送り其功勞を表せり左は刀自の實兄廣瀬實榮氏について聞き得たる要領なり

◎男裝時代の刀自　刀自は幼少より婦人らしき生活よりも男子らしき生活を好む方でありまして凡そ十歳頃までは男裝して大小を脇挾み遊んだり戯れたりするにも常に武士に擬ふて居りました生れは安政元年の六月廿七日舊土佐藩の東京邸で生れました私の家は土佐藩の上夫でありましたから維新の際に土佐に歸りまして刀自も山内家の奥の御側役も勤めて居りましたが十六歳の時再び東京に出ました刀自は幼時より學問が好きでありまして和漢の學を修め叔父に當る土佐藩の細井氏及び志村孤雲氏等について學びました其頃に女子が學問すると云ふのは餘程風變りの事でありましたが刀自が幼時より修始一貫して居る一の主義は日本の女權が擴張されないのはつまり婦人に獨立自尊と云ふ考へがないからであるそれを爲すには婦人自から進んで自分丈の事は自分ですると云ふ考へがなくてはならぬ男子の指揮の下に立つてするやうでは女權の擴張なそは思ひもよらぬと云ふの理想で遂に其主義を一貫して終始獨身で獨立自營致しました其幼時には外國婦人が日本に來て居るも尠いが獨逸人サイゼン氏の築地女學校に入り學問上よりも寧家庭の實務を實地的に專ら習ました

◎森村女紅場　森村氏と私の家とは昔しより緣故か深くありまして又市左衞門氏も其頃よりして女子教育には熱心でありまして日本國を盛んにするには女子教育を起すより外はないと云ふので其頃築地の小田原町に森村女紅場と云ふのを建てられまして娘を集めて教育する事により其教育を專ら擔任する事となり十餘年間之に盡しましたが病を得て止なく之を退き學校も同時に閉鎖するの不幸を見まして

◎京都の住居　其後私は商業上の關係からして神戸に居住する事になり刀自を同伴しましたが神戸は病ひを養ふの土地でありませんから刀自丈けは居を京都に移し靜養さす事に致しました處が山紫水明の地は刀自が身神に適ひ數年にして病ひやゝ閑なるに至り折柄親族なる川田剛氏の勸誘にも遇ひ運動旁々無聊を慰す爲に京都の女學校に出て手傳ふてはどうであるかとの事で眞の特志て同校に出る事になりまして主に精神教育の方面なり作法禮法なそを受持ちました後ちには身命を抛つまて其職に盡す事になりました

◎精神家　刀自は總て事に熱心でありまして一の仕事を始めましたならば其事柄の好結果を得るまで絶へす其事にのみ熱中してこれを行ひ己の意思を一所に集中する方でありまして私共は常に忠告して居りましたそんなに働いては身體の爲にも惡いからと申しても中々聞きません學校の事は素より廣く公共の事業にも全力を注ひで致します爲めに京都では多少の功績もあッたものと見へまして種々なる團體の人々から惜まれまして葬儀の際も非常に嚴肅に行はれまして人の申す處では京都では新島襄先生以來始めて此如嚴肅な葬儀が行はれたと申す程で私共も立合ひまして京都の人々の厚き御志には深く感激致しました

◎雪を枕に（露の進軍のかへ歌）

出征兵士に代りて　某貴夫人作

一、雪を枕に　露營をすれば
　ランプの代りに　お月樣照らす、

二、夜具の高粱に　雪溶けかゝり
　まぢり〳〵と　一夜をあかす、

三、更けりや身體も　凍へる寒さ
　どうせ捧げた　命ぢやけれど、

四、眠りかねては　夢さへ成らず
　親も妻子も　捨てゝは出たが、

五、息のある内ちや　忘れもならず
　いつそ夜襲が　ましかも知れぬ、

六、塹壕鐵條は　一心こめて
　切ればきらるゝ　越ゆればこゆる、

七、こんな難儀も　御國の爲や
　君の御爲にや　つゆ惜からず、

八、旅順落して　奉天奪つて
　恨重なる　露助の仇に、

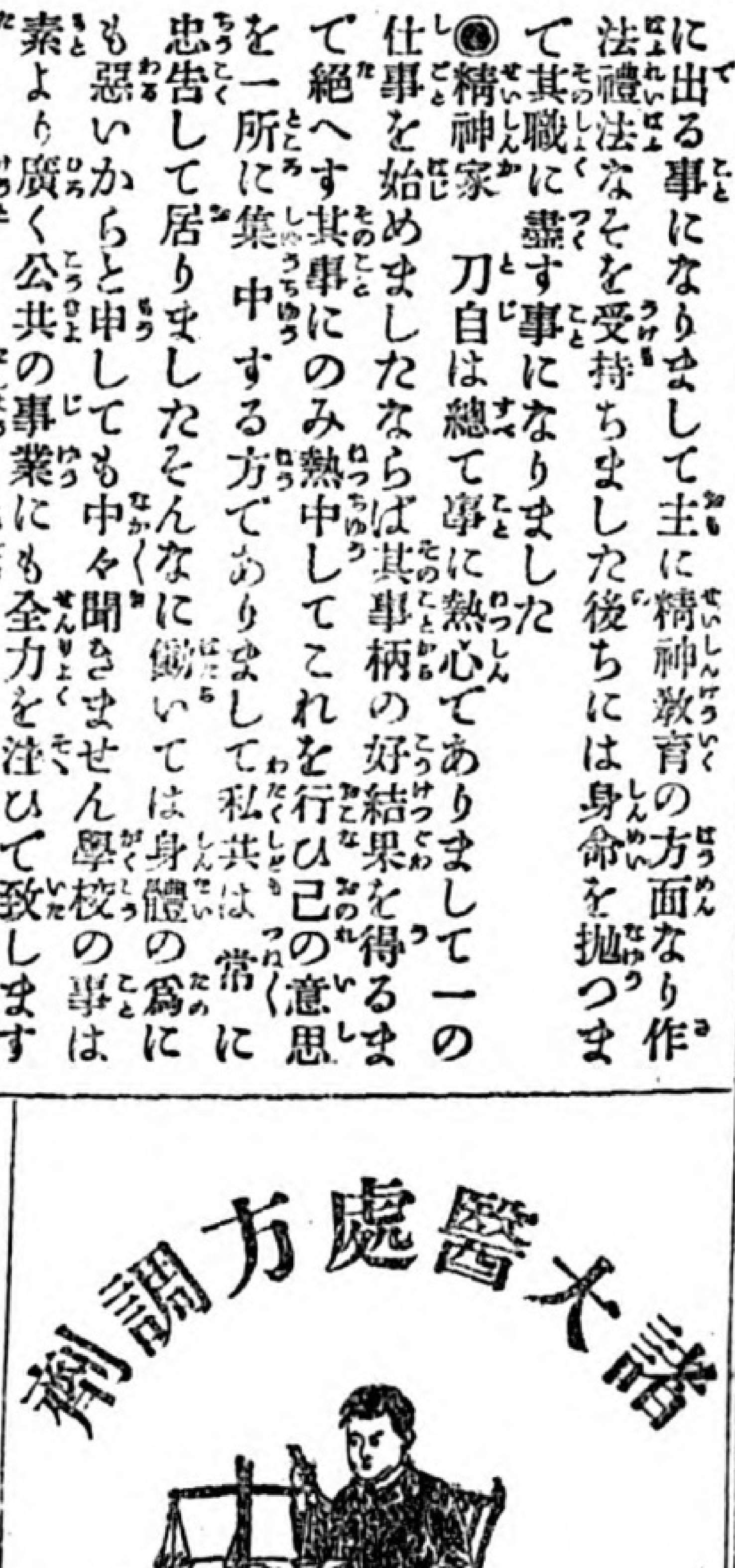
九、肝を錬りつゝ　薪に臥せし
　甲斐も報ひて　この嬉しさよ、

十、君の御稜威を　萬代までも
　赤き血汐て　染め出さなん、

十一、親よ妻子よ　故園の友よ
　勳燿く　御旗を立てゝ、

十二、ともに嘔はん　凱旋の日をば
　共に祝はん　平和の秋を、

諸大醫處方調劑



衛生消毒材料　○分娩用具各種　○脫脂綿花　○硼酸綿花　○脫脂カーゼ　○消毒綳帶
簡便衛生機械　○吸入器各種　○體溫器各種　○灌腸器各種　○イルリカートル各種　○補乳器各種　○乳吸器各種
內外藥種賣藥　高等化粧料　滋養飲料各種
東京市神田區今川小路三丁目組橋通　電話本局一五一八
尾澤純良堂　藥劑師　尾澤橘三

米國醫學博士ジヤス氏發明藥　齒藥之王
日本諸大醫實驗頌讃功能保證
一六散
齒の痛直に止る保證　齒の腐蝕崩碎を止る　齒の惡熱を去る　齒の動きを能く締る
價拾錢廿錢送料貳錢　各藥店に取次　毒にならず口の荒にも治る吞でもよし
共に東京木挽町九丁目八番地　木原山石堂藥房

中久　正札附陳列場　商品目錄
西洋小間物　帽子各種　婦人用小間物　內外化粧品　文具玩具
東京神田裏神保町一番地　商店

編輯主任文學士　下田次郎氏
女子教育　第二卷第二號　定價拾五錢
發行所　東京市神田區錦町一丁目　明治書院

正札附　廉價販賣

意匠斬新　新　くし、笄、かんざし　リボン、ヘーアピン、サイドゴム
鼈甲小間物商　東京市神田區須田町十番地　三ッ井屋　電話本局二〇七六番
神田神保町東明館內支店　新橋博品館內支店

東郷花　其他流行花東花簪及盛籠製造
本郷三丁目三十一番地　東郷造花店

合名會社　森村銀行　東京市日本橋區通一丁目　電話（特）本局六七三番
定期預金　六ヶ月以上　年五分三厘
當座預金　百圓に付日步　八厘
特別當座預金　同日步　壹錢壹厘

半ゑり帶揚類　春陽季節御需用草花新柄取揃
○春季用ショール花鳥帽子織　縮緬縫刺　旭織類
○男女方襟卷　長襦袢　襦袢袖　肩裏地　帶片側
○兵兒帶絞り　戰捷柄ネキタイ　滿洲占領ひも類
新橋竹川町十二番地　電話新二〇二七　本店　ゑり治
神田表神保町一番地　電話本局九五二　支店　ゑり治

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

登録商標
水晶おしろい
薔薇麝香入
無毒薄化粧
東京通塩町 大和屋 大販賣
大瓶金貳拾五錢
小瓶金拾貳錢

[illegible]模様
ゑり善
日本橋ふきや町電話浪花千二百七十番

戰勝紀念ハンカチーフ
旅順陥落祝捷用ハンカチーフ
戰局地圖ハンカチーフ
恤兵品
御進物用箱入美麗調製
東京市日本橋區ふきや町
中西儀兵衛
電話浪花七百番

賣捌所は各地賣藥店にあり

愛國婦人大會最必要各種草履
●千代田草履　價貳圓前後
●志喜島草履　價一圓七十錢前後
●東　草　履　價一圓五拾錢前後
●南部表裏草履　價一圓以上
●江戸子草履　價一圓三十錢以上
右之品意匠嶄新珍品澤山取揃有之市内ハ御報次第店員可伺候遠方ハ御申越次第引換小包ニテ御發送可申上候
東京市淺草區茅町貳丁目
登録商標 香
香取屋本店
電話下谷壹壹九二番

一定期預金　年五分
一當座預金　日歩七厘
一特別當座預金　日歩一錢
電話本局(三、三〇〇番 三四一番 (特)一〇三七二番)
東京市麴町區銭瓶町(常盤橋内)
日本興業銀行

花王石鹼本舗
東京馬喰町
長瀬富郎製品

白色くきめをよくする二八水
本品は皮膚に有効なる最新藥を選擇し又香氣は上流社會に專ら流行の「ロース」「バイオレツト」を配合せり
中壜一本拾五錢

補血新劑
スポール無味肝油
補血劑として稀世の卓効を有する新藥にして僅かも惡臭を存せざるのみならず飲用に適する香氣を有するを以て婦女子も尚喜びて服する事を得べし
東京日本橋區本町四丁目
合名會社島久商店
(電話本局特四九一 電話本局三〇一八)

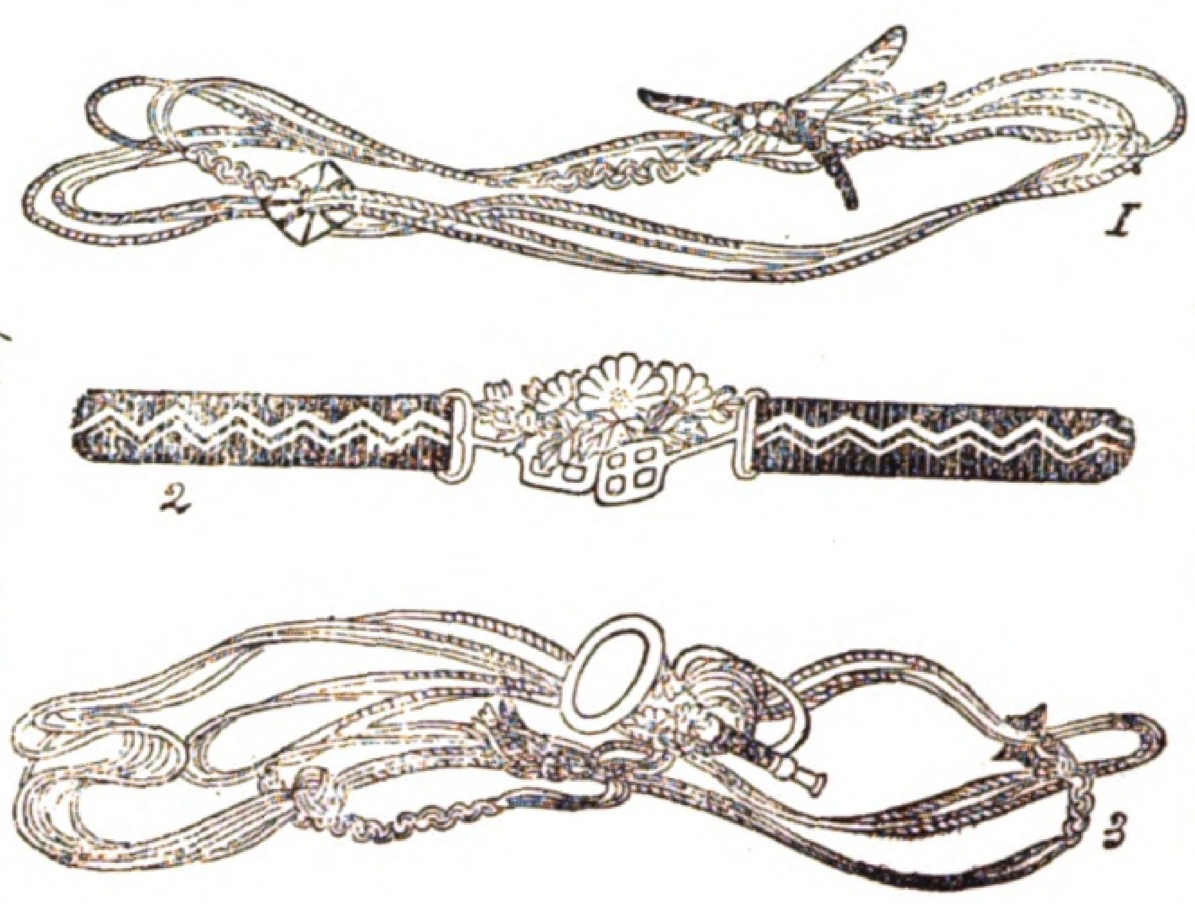
井上秋江女史著（しんばん）
漬物のおけいこ
御承知てしよか此本は近頃御評判が非常に高く初版再版一万冊は廣告のひまがなく第三版を發行致しました
全一石版刷表紙頗美紙數二百輪夫價廿八錢郵稅四錢
山吹色の御茶漬に淡泊しました香の物何さ甘しく又安上りでわ有ませんか第一に費かからず道具もいらず他の料理と事違い手數かからぬ御漬物なまじな御菜より餘程まし然し朝夕も又でわ餘り度々です費がかかりませんからソチ同物を召にも及ますまい何わさて家一軒に無てわ叶ぬ御漬物さても毎日の事儉約して甘く拵ゐるのが主婦方の御働き甘くて手輕で安い程結構な事わ有ますまい此本わ右の三ツの事に叶い升樣に書まして漢語交りの樣な言葉わ一切やめにして文字も大く假名附で其に綸等も澤山で加之に漬物心得一寸しました魚漬物やさてわ即席漬物の秘傳等親切に書て有まして老女方や孃さん達によく解る事受合て置ます
東京神田小川町 寶永館
東京神田神保町 富山房
大坂市南區順慶町 修文館
大坂市東區南本町三 三書店
●東京神田神保町東京堂●同小川町文會堂●日本橋通四丁目青野堂●淺草仲見世聚星堂●銀座新橋宅

最新發明 萬世不變色 ソーラプリント 美術肖像畫 製作廣告
ソーラプリントは米國の最新發明にして電氣を應用して普通寫眞の像影を大小隨意に復寫し更に加筆彩色を施せる肖像畫なれば頗る精巧完美にして誤寫と變色の憂なし今回弊館は此枝を專修歸朝せる技師を聘し廣く高囑に應し調進せるに忽ち好評を博し特に軍人諸君又は奬兵義會等より多數の御注文を蒙れり冀くは大方の諸彦陸續御注文の上最新工藝の發達を試みられんことを其定價表等左の如し

號數	畫寸法	代價
壹號	長一尺 巾八寸	金貳圓七十錢
貳號	長一尺三寸 巾一尺一寸	金參圓廿錢
參號	長一尺六寸 巾一尺三寸	金四圓
四號	長一尺八寸 巾一尺五寸	金五圓五十錢
五號	長二尺一寸 巾一尺七寸	金七圓

○掛軸用「ソーラプリント」並「パステル」並に水彩色附三割増し
○「ソーラプリント」にて全身並に二人以上は一人を増す毎に凡て定價の二割増
○服装變更（譬へば和服を洋服に改むる如き）は二割増し
○東京市内は御報次第店員參堂可仕候
但し寫眞御送附御注文の節は服装等御好みあらば御明記を乞ふ
○地方より御注文の節は前金申受けざるも出來の上は代金引換小包郵便を以て御送付可申上候 但し小包料は其實費可申受候
東京市京橋區大鋸町七番地（東仲通寶珠散向）
肖像館
電話本局二一九五九番

新案帯留（大西白牡丹好み）



(1) 日英米 三國締
銀及青貝へ蒔繪を配合せし勝蟲の金具へ草色地に露を打込し紐を附しコキへ英米の國旗を現はす
價壹圓五拾錢

(2) 帝國陸軍 勳功締
金具は銀臺へ蒔繪にて菊花にくつわを添へ戰ば勝つ帝國陸軍を意味し山道模樣の絹幸田を附す
價參圓參拾錢

(3) 陸海軍 勝鬨締
丁貝のラッパ形へ赤ニ數條の紐は新式の絹打にて美しき配合なれば少女方には適當の帶留に候
價壹圓五拾錢

送料內國十錢清韓臺灣廿錢

東京市南傳馬町貳丁目
大西白牡丹
特 電話本局三十番

寫眞撮影 淺草公園 江崎

人麿形 信玄袋

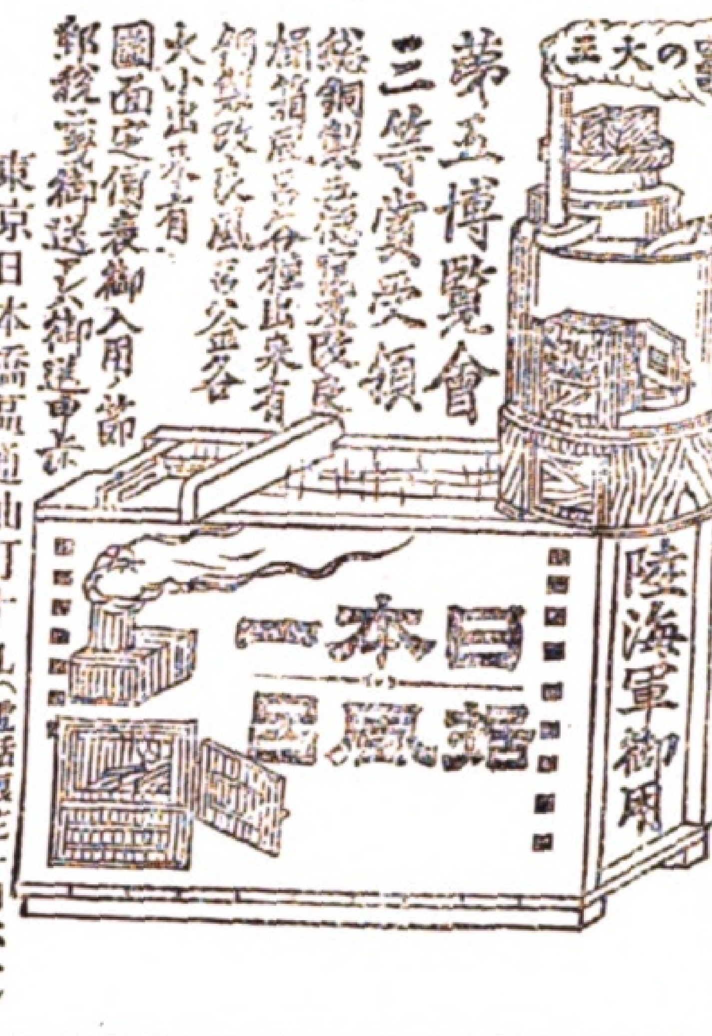
弊店曩に信玄袋を發賣せしより已に二十ケ年餘を經我國婦人界は言ふに及ばず遠く外國婦人にまで稱賛を博し此長年月間一日も製作を絶ちたることなく爾來船來女持カバンの輸入を杜絶せしめ世人の信玄袋とし言へば直ちに弊店を聯想せらるゝに至れりとのも蓋し宜なりと言ふ可し

地方よりの御注文は御年齡御記しを乞ふ

一圓五十錢	一圓七十錢
二圓	二圓五十錢
三圓	三圓五十錢
四圓	五圓
五圓五十錢	六圓
七圓	拾圓

●遞送料拾錢臺灣清韓三十錢
●爲替新橋局郵券代用一割增
●代金引換は別に十錢申受候

內國博覽會各展覽會優等賞受領
美術袋物煙管金銀彫刻 商
東京新橋際南金六町
佐竹袋物店
電話新橋千卅一番



第五博覽會 三等賞受領
總銅製並總銅張改良桶箱風呂各種出來有
銅製及改良風呂釜各大小出來有
圖面定價表御入用ノ節郵稅貳錢送ア御請求

製造發賣元 東京日本橋區通油町十九（電話浪花一四六一）
銅器物問屋 南部鐵瓶販賣
石川商店

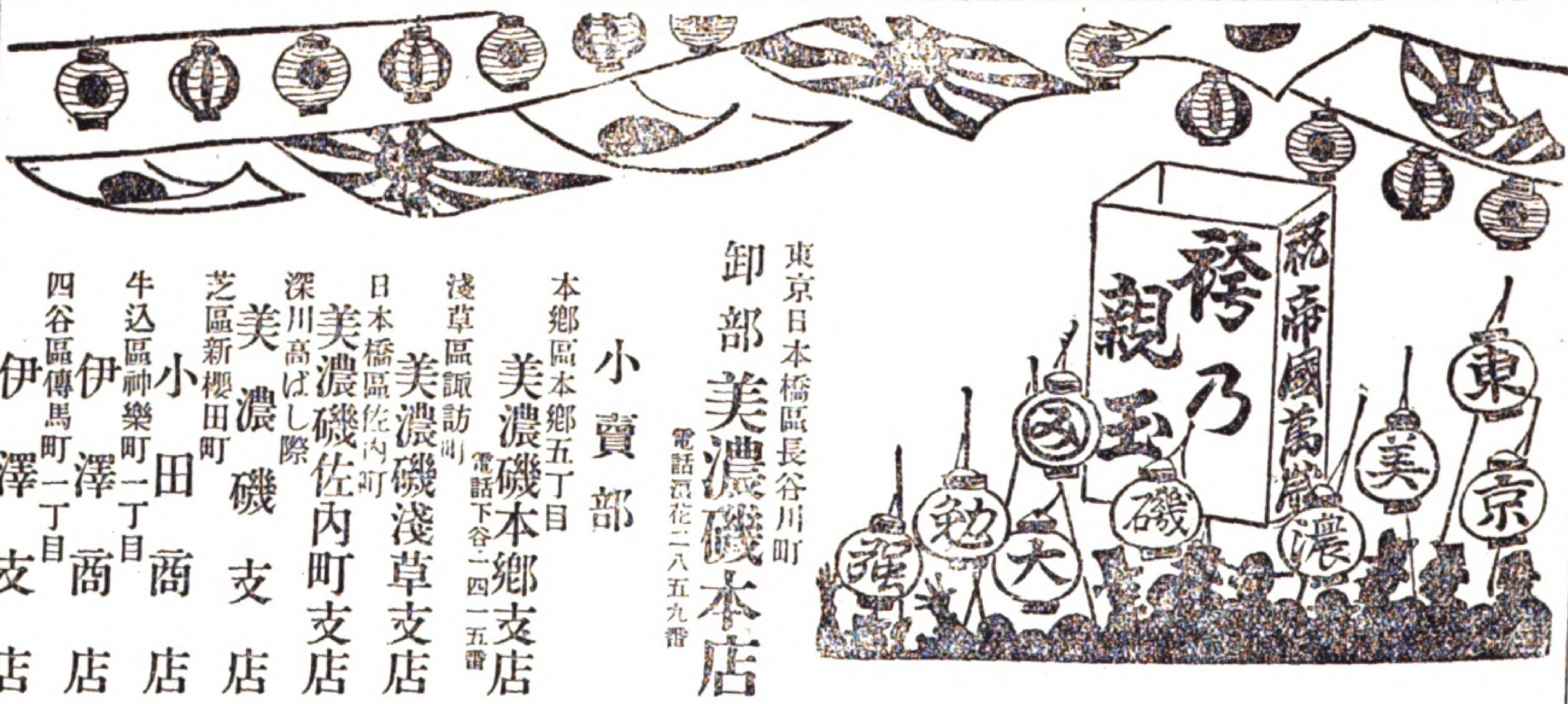
西川商舖牛豚肉販賣 謹告

品質佳良無比類　價廉我店所最勉
配達迅速而正確　夏季殊勉其防腐
普通配達日三回　市內何處不厭遠
若有臨時急用事　走自轉車而直辨
地方配達有便法　特勉西洋料理用
請試購而評其味
價格左ニ

牛肉百匁	円
ヒレー	50
ロース	45
ラン	38
ステキ	38
イチホン	38
ヒキ肉	30
ブリスケ	22
ハラスープ	16
スネスープ	20
尾	15
ケンネン	05
舌	42
ケンネン油	14
ヘット	16

豚肉百匁	
上等	20
並等	18
チヤプ	14
ヒキ肉	16
油	16

恭賀新年
小石川表町廿二番地 電話番町六五九 **西川本店**
本鄉區駒込東片町五番地 電話下谷二二七一 **西川支店**



東京日本橋區長谷川町
卸部 **美濃磯本店**
電話浪花二八五九番

小賣部
本鄉區本鄉五丁目 **美濃磯本鄉支店** 電話下谷二四一五番
淺草區諏訪町 **美濃磯淺草支店**
日本橋區佐內町 **美濃磯佐內町支店**
深川高ばし際 **美濃磯支店**
芝區新櫻田町 **小田商店**
牛込區神樂町一丁目 **伊澤商店**
四谷區傳馬町一丁目 **伊澤支店**

御用達

まけぬといふたらほんまにまけぬ

御婦人小間物類
美術金銀鼈甲蒔繪彫刻
束髮用品々
たばね 花簪
商號 わんぷらいすしよつぷ
日本橋區通三丁目交番側
京染御半ゑり 向ひ角 同ゑり店
電話本局二千九百四十七番

日曜日休業

醫院案內

院長 醫學博士 榊順次郎
副院長 醫學士 久保德太郎
婦人科産科榊病院
毎日午前診察 毎日夕刻診察
東京麴町三番町卅三（電話番町三九五）

齒科治療 橫濱出張
毎日午前八時ヨリ午後五時迄
毎月曜日橫濱市高島町十八番船橋方
名倉齒科醫院
京橋區南金六町一番
電話新二二六三

ドクトル **川瀨元九郎**
內科一般 內科的小兒病
身體檢查并に**運動療法**
東京市麴町區隼町二十八番地
診察午前中（電話番町八二二番）

小兒病診療
醫學士 **內田愼太郎**
淺草區福井町貳番地
宅診午前 往診午後
電話下谷七一八番

耳鼻咽喉科院
院長 ドクトル **山上兼輔**
診療毎日午前
四谷區本村町三十七番地
電話番町七三〇（士官學校前）

院長 醫學士 **烏山南壽次郎**
烏山內科院
午前診察 午後往診
京橋區鎗屋町十一番地
電話新橋千七百四十六番

神田區今川町三番地
內科病特に腦脊髓神經疾患
院長 ドクトル 峰秀世
峰內科醫院（電話本局三〇一九）

○**眼科開院**○**入院隨時**
獨逸及び澳佛へ留學多年眼科專攻今般歸朝眼科開院專門診察に從事す
○**診察時間** 午前自九時至十二時 午後自三時半至四時半
東京市神田區錦町三丁目一番地（大西眼科醫院跡）
山口眼科醫院（電話本局七一五番）
院長醫學士山口秀高
醫學得業士 守田正雄

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

◎特約販賣店
◎東京堂　神田區表神保町三番地
◎東京堂
◎東海堂　京橋區銀座四丁目

油染油垢でも揉まずに脫る奇代の原料

世界無比 新發明 英國製ワッセル

◎此ワッセルは湯一升に二匁（小盃へ半分餘）の割合にて溶解し洗濯物を凡弍時間浸し揉まずに置き後水にて洗へば自然に脫ます白地の着物シャツ足袋等には石鹼より數倍の効用があります
◎婦人の髮は一匁五分（小盃へ半分位）を一升餘の湯に溶解して洗へば玉子と同樣の効用があります脂肪多き身躰に常に使用すれば皮膚を密にします尤も水虫糸かせ手のあれる事は決してありません
◎食器臺所道具は勿論戸棚板の間の拭掃除にも有効です絹木綿毛織物を晒すに至極妙です又硬水を軟水にする特効があります蒸汽管の鑵石も奇妙に除去ます

芳香ワッセル

◎此ワッセルは香料其他衛生に適する各種の原料とを加味せしものなれば朝夕御用ひの方に香氣馥郁として色を白くし總て皮膚の患にかゝるとなし又おしろい下を用ひずして御化粧の出來る事妙なり

ワッセル水―ワッセル石鹼

◎此品も芳香ワッセル同樣の有効品であります論より證據一度御用ひあれば其効能はすぐ知れます

東京京橋區出州間堀三丁目河岸　英國製ワッセル日本一手販賣元　御肌あらい芳香ワッセル製造元　三友商會　（電話新橋千七百十二番）

費用と手數を省き無害有効の洗淨品

資本金千八百萬圓

東京京橋區木挽町　株式會社　十五銀行　電話新橋　一三〇〇番　一五三〇番　三一九三番
同日本橋區新乘物町　同　日本橋支店　電話浪花　一九〇一番　一三二七四番　一三五〇八番

一定期預金　六ヶ月以上年五分
一當座預金　日步七厘以下
一特別當座預金　同　壹錢

めぐすり壯眼水

御注文の節は電話又は葉書を以て御報知被下候はゞ速時に見本の品々持參貴覽に供し可申上候間何卒御用命の程奉願上候
尚御用向御通行の砌りは御立寄りの上御高評願上候

公衆藥局開設
歐米各國化粧品
舶來造花一式
壯眼水
寶丹
製劑藥品
各國有名賣藥
御滋養料
衛生材料

岩浪製藥所　守田寶丹　靈方合資會社　玉置合名會社

前岩浪藥舗
壯眼水發賣元　藥劑師　山田一民藥局
東京日本橋區村松町十二番地（特）電話浪花五八九番

改正新形 篤志看護帽子
多數出來合有之候間御注文願上候

婦人洋服地并附屬小間物帽子及袴地
八木屋號
東京市麹町二丁目七　大國市藏　（電話番町七四二）

高等西洋料理　牛鳥御料理
ロンドン號　山崎武八郎
神田區仲猿樂町角舊松本跡　電本九八九

特約店　平尾贊平

雞卵印 手洗粉
登録商標
一袋一錢 五錢
卯甲製造
東京酒井馬喰町 玉盛堂

登録商標
市內ハ御用命之節一報直ニ伺候
東京よし町
佐竹組糸舖

めりんすゆうぜん
人形町通住吉町
おぐるまや

他の所謂畫報類と比較せられんことを望む
眞價愈よ發揚大歡迎大好評

征露寫眞畫帖

◎奉天の大決戰も我大捷に歸し同方面に唯一の從軍寫眞師を特派せる我社がいよいよ光彩を發揮すべき時は來れり本編は光澤ある麻布御殿兩內親王殿下の近御肖像を始め

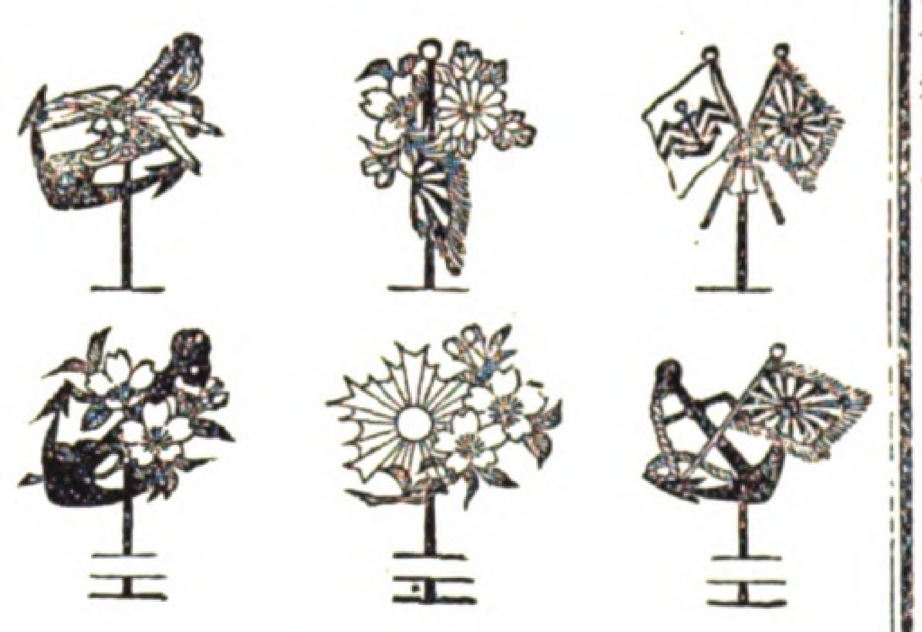
寫眞版四十餘枚
▲兒玉大將の戰地美人　繪葉書及各將軍寄せ書
▲雪中戰塹壕內の一齊射擊　實景寫眞
▲奉天前面の敵の大防禦工事　塹壕寫眞
▲我總司令部督戰　實景寫眞
▲砲臺粉碎せし榴彈　砲彈寫眞
▲我占領後の旅順八景　寫眞
其他　大本營秘藏寫眞及若尾高島兩特派員の寫眞歐米畫伯名畫　戰時記事　小說

◎第拾壹編　◎三月十日發行（每月一回）一冊廿錢郵稅共　半年分郵稅共壹圓拾七錢　◎切手代用一割增の事

◎征露寫眞畫帖合本（自一編至六編）洋裝金文字入美本箱入　金圓四拾六錢郵稅廿錢　壹編より全部揃ふ
◎第三軍寫眞帖（旅順攻圍の最大紀念帖）寫眞版四拾餘枚　價廿錢郵稅貳錢
◎第二軍寫眞帖（價貳拾錢郵稅貳錢）
◎第一軍寫眞帖（寫眞版六十餘頁 價卅錢郵稅貳錢）

東京麴町區有樂町三丁目一　（電話本局一五一四）
實業之日本社
賣捌各地書店

戰勝紀念ピン



金銀の地金に七寶の彩色うるはしく圖案は孰れも陸海軍を象れる優美なる意匠に成れるもの世の紳士淑女たちは各その胸間に飾りて此の千載一遇の皇軍大勝利の紀念としたまへかし。
定價　純銀製一個金三十五錢以上　餘は御好み次第迅速調製可仕候
手釦は孰れも陸海軍を象れる優美なる意匠を凝らしあれば世の紳士たちは洋裝に飾りて皇軍大勝利の紀念としたまへかし。
此圖案の外陸海軍連勝にちなめる斬新の意匠を凝らしたる提物澤山出來致居候

宮內省御用達
東京市下谷區池の端仲町
玉寶堂
電話下谷 特九六五番 一二四四番

（明治三十八年三月廿日發行（每月五日二十日二回））
發行兼印刷人　山澤俊夫　編輯人　手島益雄　發行所　愛國婦人會內
印刷所　東京市牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地　株式會社秀英舍第一工場

明治三十八年三月廿日發行（毎月二回五日廿日）
明治三十五年三月廿七日（第三種郵便物認可）

愛國婦人第七十四號附錄

評議員
子爵夫人松平八百子

東京支部幹事
阿部多賀子

神奈川支部幹事
中山あい子

發行兼印刷人　山澤俊夫　編輯人　手島益雄　發行所　愛國婦人會內愛國婦人發行所
印刷所　東京市牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地　株式會社秀英舍第一工場

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN